

もの言う牧師のエッセー 第153話

「セキュリティとは？」

ベネッセホールディングスから最大 2000 万件の顧客情報が盗み出された事件が 7 月にあった。漏洩したのは通信教育サービスに関連する顧客のもので、子供と保護者の名前、住所と電話番号、生年月日や性別といった個人情報が含まれる。「もう！ 何のために何重にもブロックしているのか。全然意味ないじゃないですかぁ」と、ぼやく主婦のコメントがテレビに出ていたが、9 月には米アップル社のデータ保管・共有サービス「アイクラウド」から米女優ら著名人のプライベート写真が大量に流出。さらに 10 月に入ると米金融大手 J P モルガン・チェースがサイバー攻撃により過去最大級の 8 3 0 0 万件の顧客情報が流出した可能性がある」と発表。一体どこまで続くのだろうか。

情報が盗まれる理由はただ一つ、それに“希少価値”があるからだ。そう言えば私の知人で最新のポルシェを“2 回”盗まれた人がいる。アラームやロックはもちろん 24 時間警備員もいたのに。残念ながら「狙われたら終わり」のようだ。じゃどうする？ 皆がポルシェに乗れば良いということか。

実は北欧のスウェーデンなどの国では年収 15 万円以上の人の納税額や住所、自宅の地図まで公開しているというから驚くが、何のことはない日本でもつい最近まで電話帳には積極的に氏名・住所を載せていたし、社員名簿などもあった。セキュリティとは“安心”を意味するが、果たして何重にもブロックして安心できる社会になったのだろうか。実は“教会”というものが今から 2 1 0 0 年近く前に始まった時、そのメンバーらは情報公開ばかりか互いの財産さえも共有していたことが聖書に記されており、まさに教会全盛時代に彼らは安心を謳歌していたが、現在は教会内でさえ個人情報の管理には気を遣う始末である。しかし聖書には、

「明るみに引き出されるものは、みな、光によって明らかにされます。」

「明らかにされたものはみな、光だからです。」エペソ人への手紙 5 章 13-14 節、

とハッキリ書かれている。光は神である救い主キリストを指し、彼を信じて心に受け入れる者は、その心が彼の光で照らし出されて罪が赦され永遠の命を得た結果、もはや“隠すもの”や“失うもの”さえも無くなり全く自由になることを意味する。と同時に、一度“光”に照らし出された者は常にその光の中で歩み続けることによって、安心がさらに堅固になっていくことでもある。それは

個々の人間力を高めることや、システムの刷新、法律の改正の如きものとは全く違う。真の安心は神によってのみ可能なのである。神に何重にもブロックして貰おう。

2014-10-14

